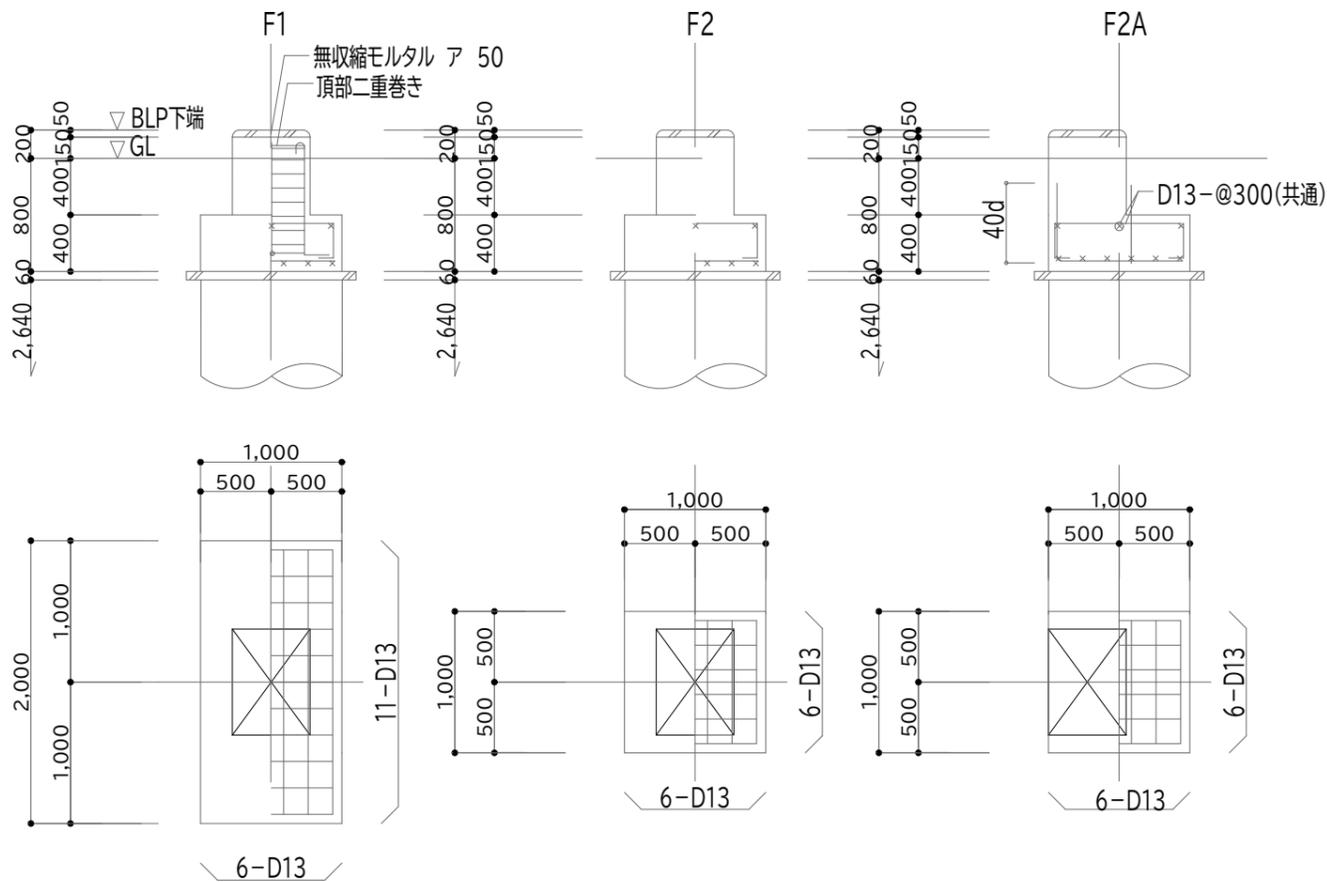


基礎伏図 1/100

※全て撤去するものとする

- 特記なき限り下記による。(1FL=GL+300)
- 1, 土間及びスラブ上端: FL±0
  - 2, 基礎梁上端 :GL+150
  - 3, :土間コンクリートt=150
  - 4, :土間コンクリートt=200
  - 5, :ピット示す
  - 6, :立上り壁 W14

基礎断面リスト 1/50



柱形断面リスト 1/50

特記外  
1, 鉄筋: D10, D13(SD295A), D19, D22(SD345)

符号	C1	C2	P1
断面			
主筋	10-D22	8-D19	
フープ	□ D10-@100	□ D10-@100	

地盤改良仕様				
工法	深層混合処理工法			
添加量	300 (kg/m <sup>3</sup> )			
基準強度	1,000 (kN/m <sup>2</sup> )			
改良径 (mm)	掘削長 (m)	空堀長 (m)	改良長 (m)	本数 (本)
φ1,000	3.50	0.86	2.64	26
			3.50	9

※添加量は現地土壌サンプルにて室内配合試験を行い決定する。

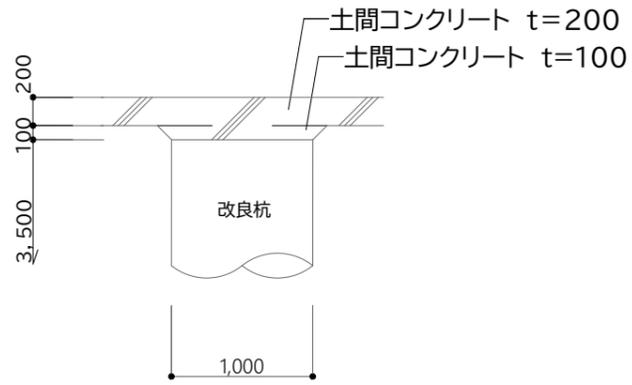
基礎梁断面リスト 1/50

特記外  
1, 鉄筋: D10(SD295A), D19, D22(SD345)  
2, 中止め筋: D10-@1000以内

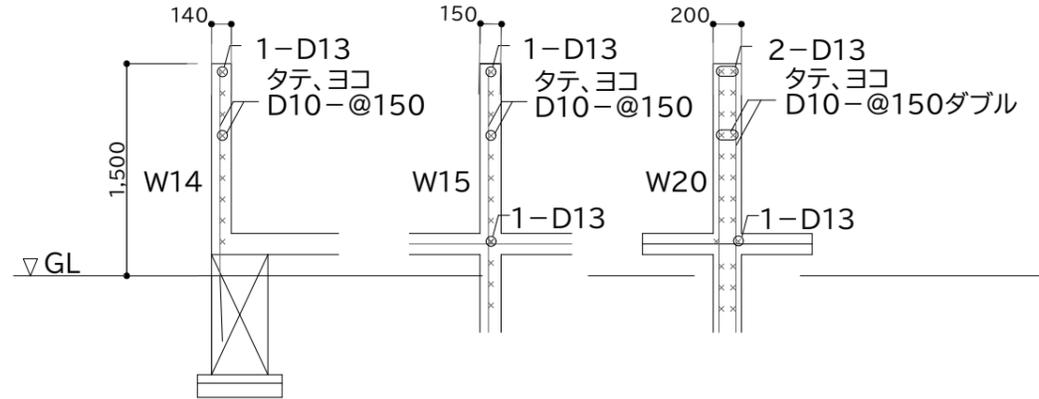
符号	FG1	FG2
位置	全断面	全断面
断面		
上端筋	3-D19	3-D22
下端筋	3-D19	3-D22
スターラップ	□ D10-@200	□ D10-@200

※基礎は全て撤去するものとする  
 ※改良杭は残置するものとする  
 ※残置杭の種別、杭径、位置及び頂部高さ等を記録する

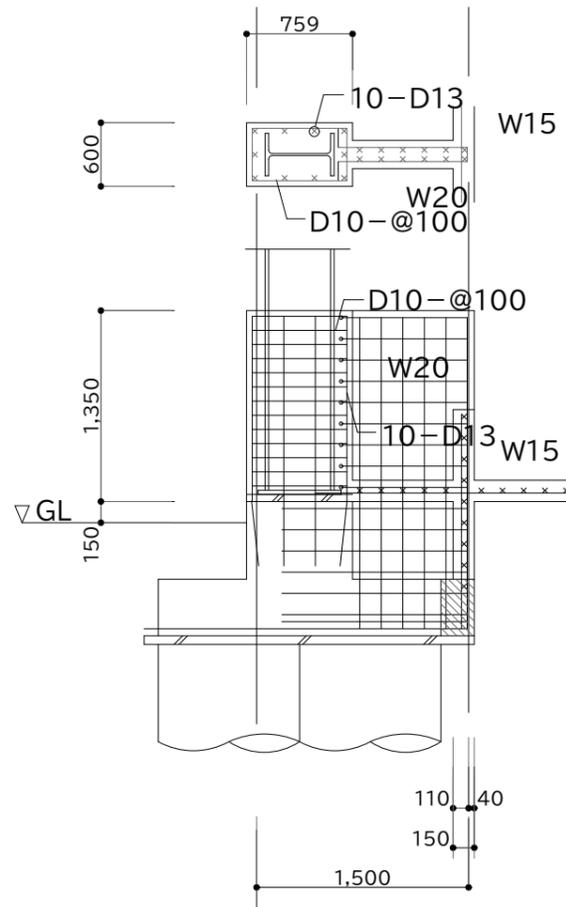
発電機基礎要領 1/50



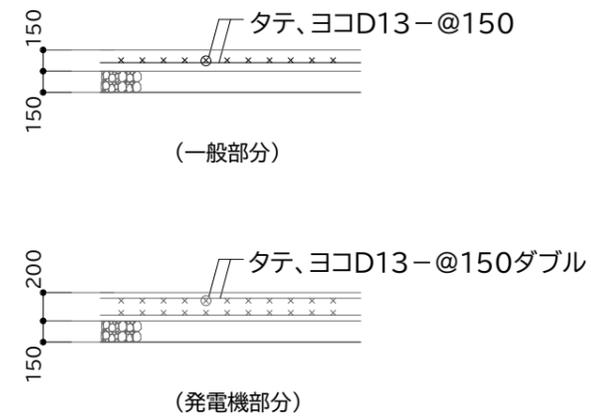
立上り壁配筋図 1/50



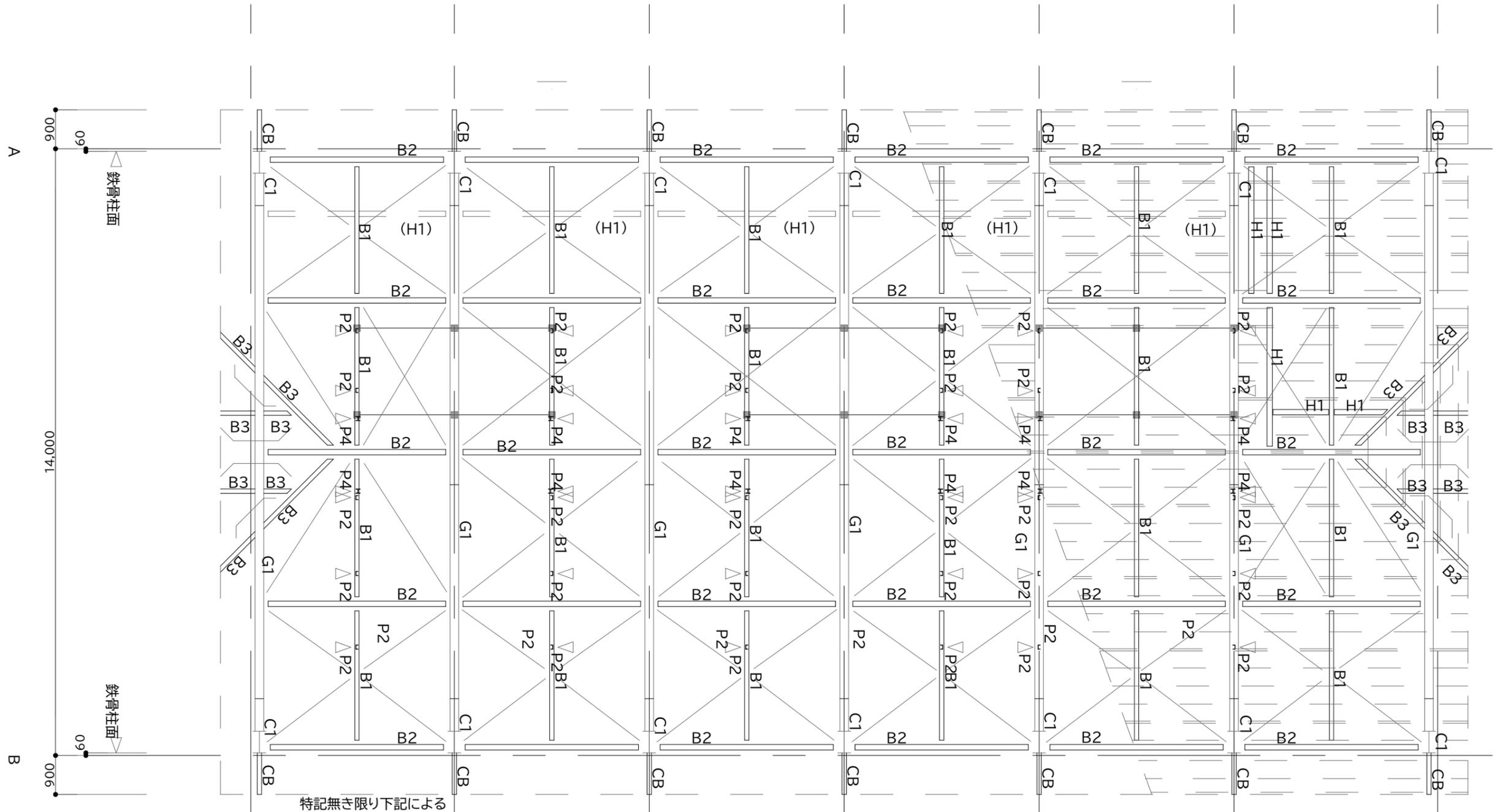
柱形打増し配筋図1/50



土間コンクリート配筋図 1/50



※基礎は全て撤去するものとする  
 ※改良杭は残置するものとする  
 ※残置杭の種別、杭径、位置及び頂部高さ等を記録する

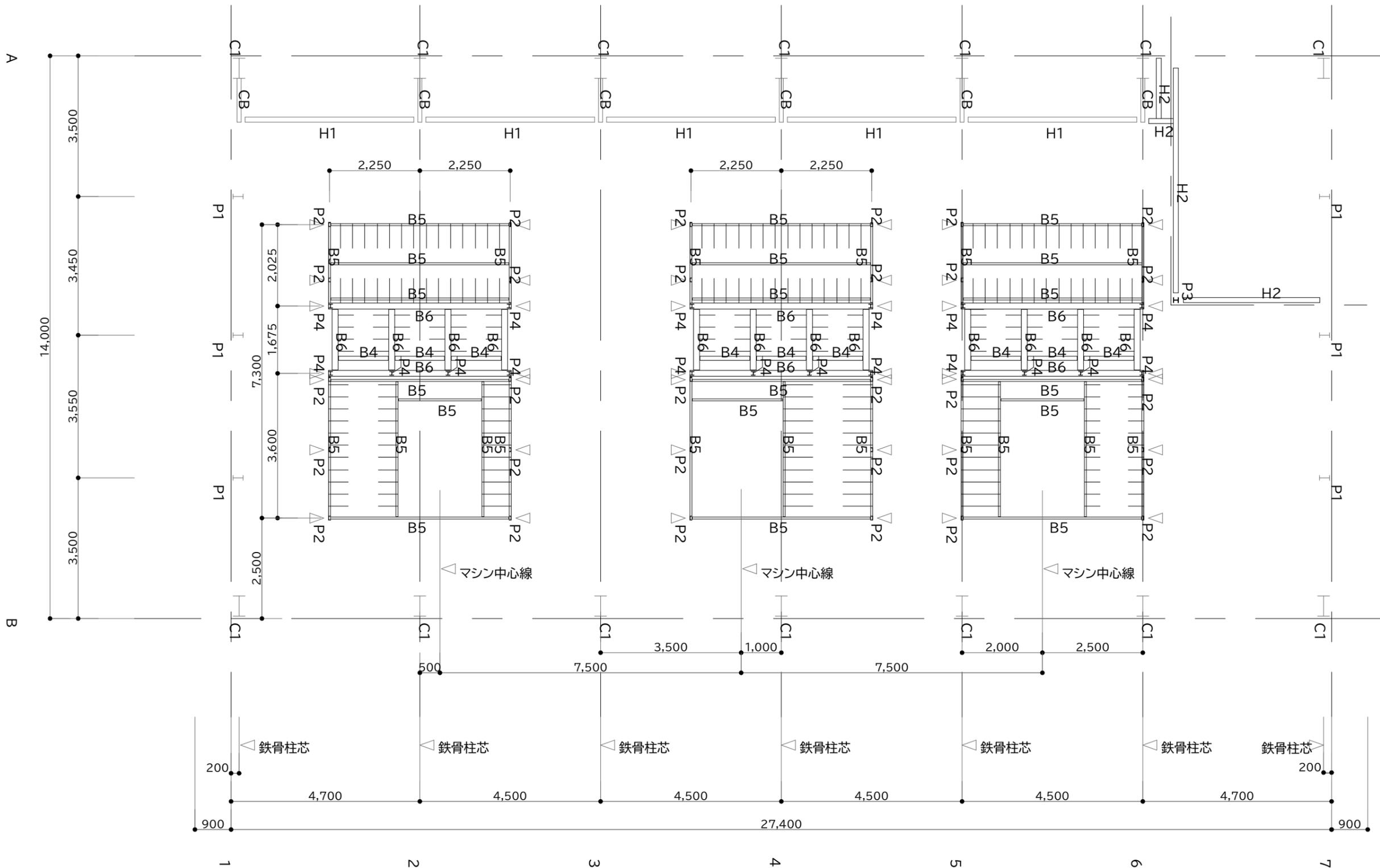


特記無き限り下記による

- |                                  |                     |
|----------------------------------|---------------------|
| 1,  : 母屋 C-100×50×20×2.3 450@示す  | 5,  : 連続梁位置示す       |
| 2,  : 母屋 2 C-100×50×20×3.2 軒先)示す | 6,  : チャンバー室吊材位置示す  |
| 3, 屋根ブレース : 1-M20(ターンバックル付)      | 7,  : チャンバー室フード柱を示す |
| 4,  : 桁ブレース位置示す                  |                     |



※全て撤去するものとする



チャンバー室伏図 1/100

※全て撤去するものとする

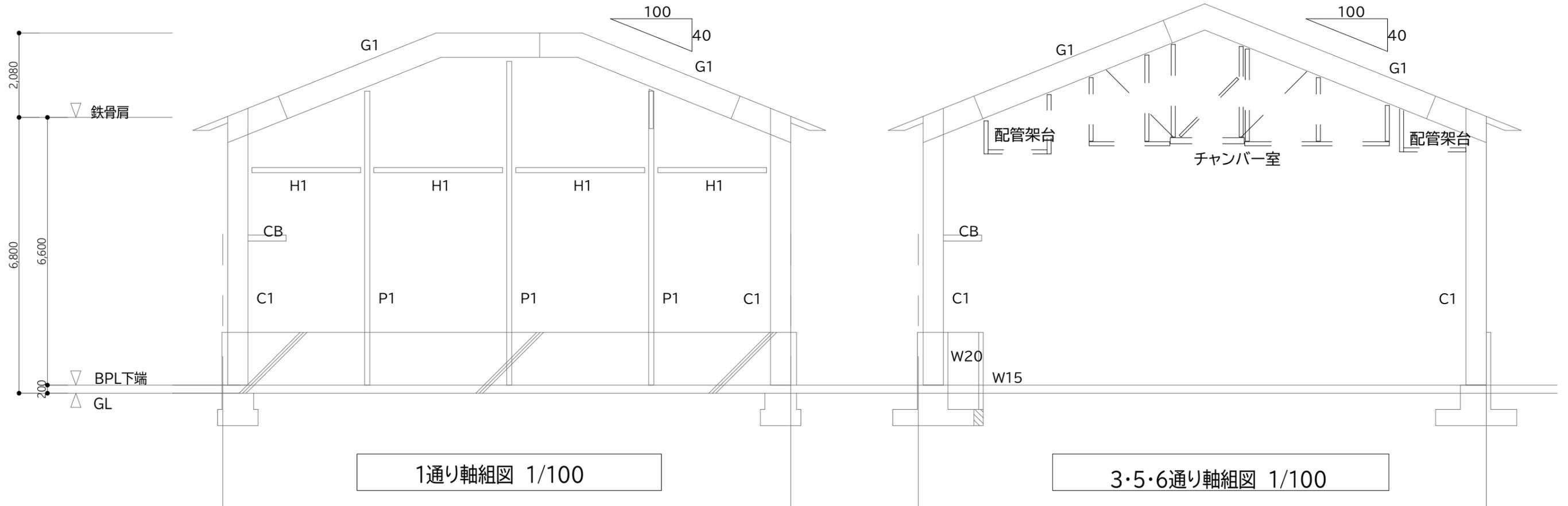
特記無き限り下記による

1, ————— : 根太 C-60x30x10x1.6 300@示す

2, チャンバー室床: 鋼板 t=1.2貼リ

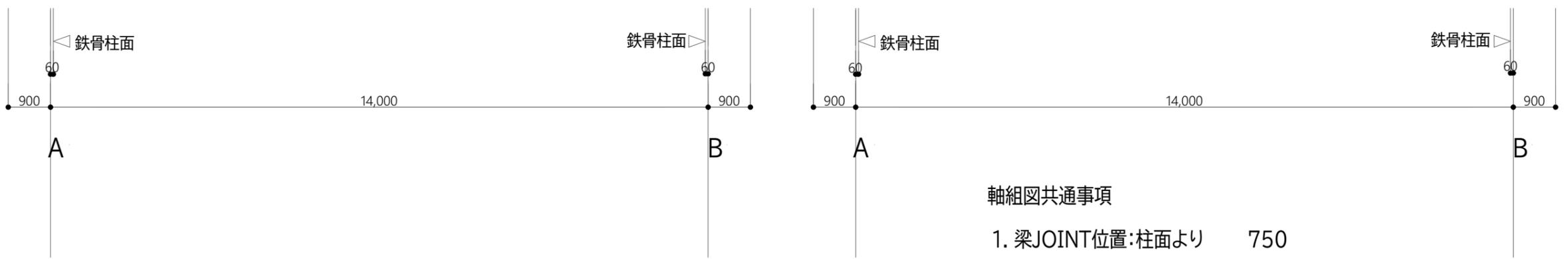
3, ▽ : チャンバー室吊材位置示す

※ B通り-1, 50mlはアスロック受部分示す



1通り軸組図 1/100

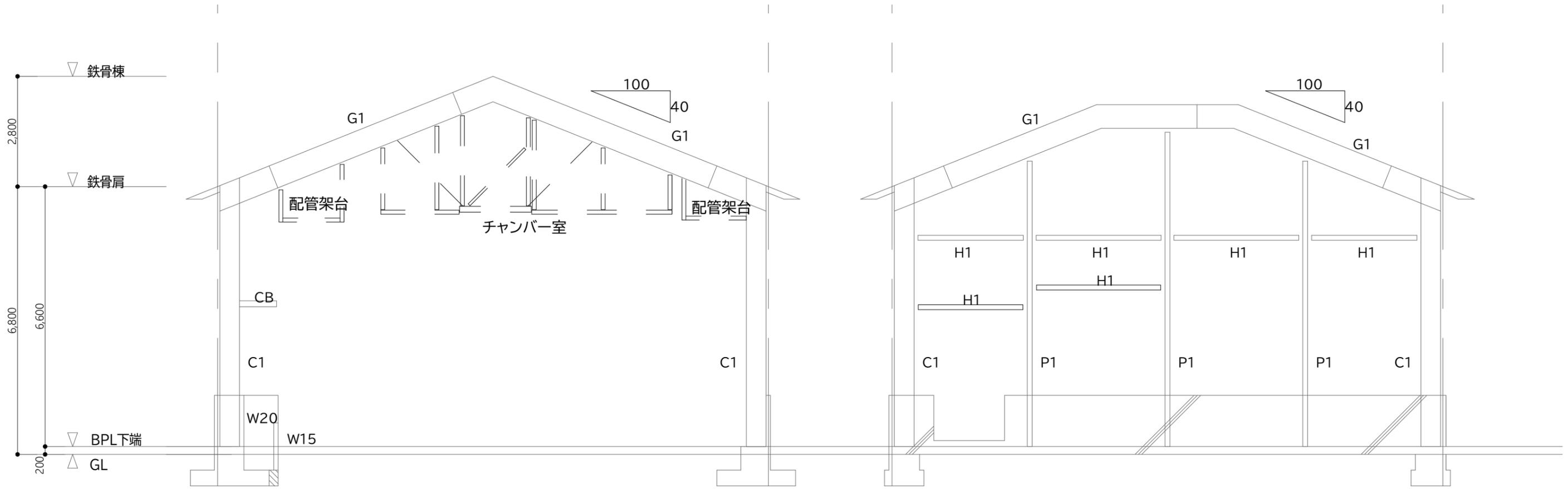
3・5・6通り軸組図 1/100



軸組図共通事項

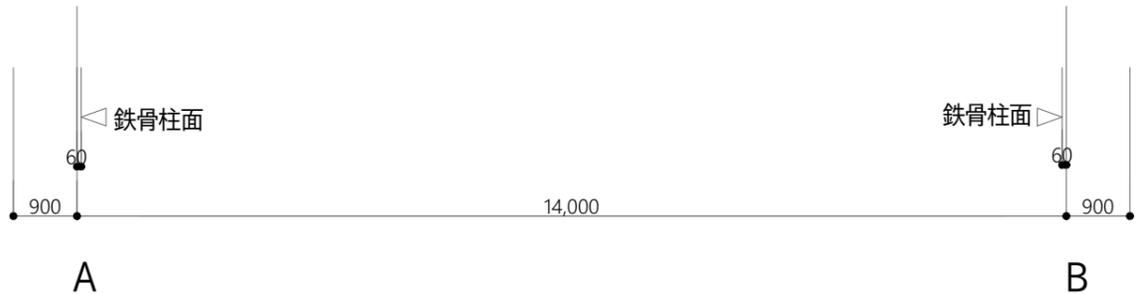
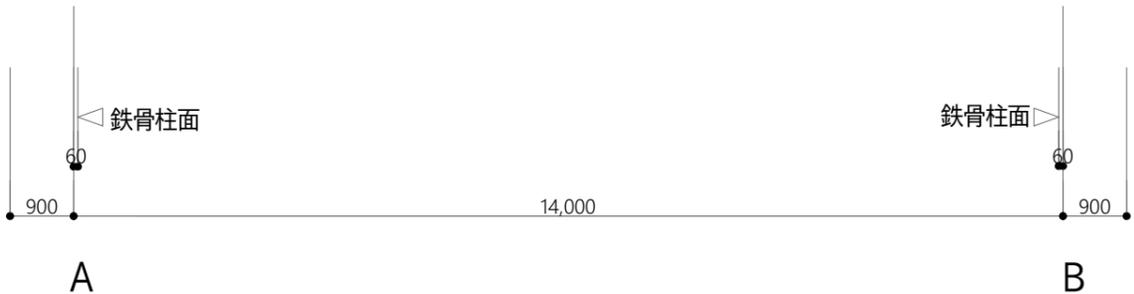
1. 梁JOINT位置:柱面より 750
2. 立上り壁 :W14
3. 大梁のジョイントが連続梁に重なる場合は移動すること
4. チャンバー室高さは意匠図による

※全て撤去するものとする



2・4通り軸組図 1/100

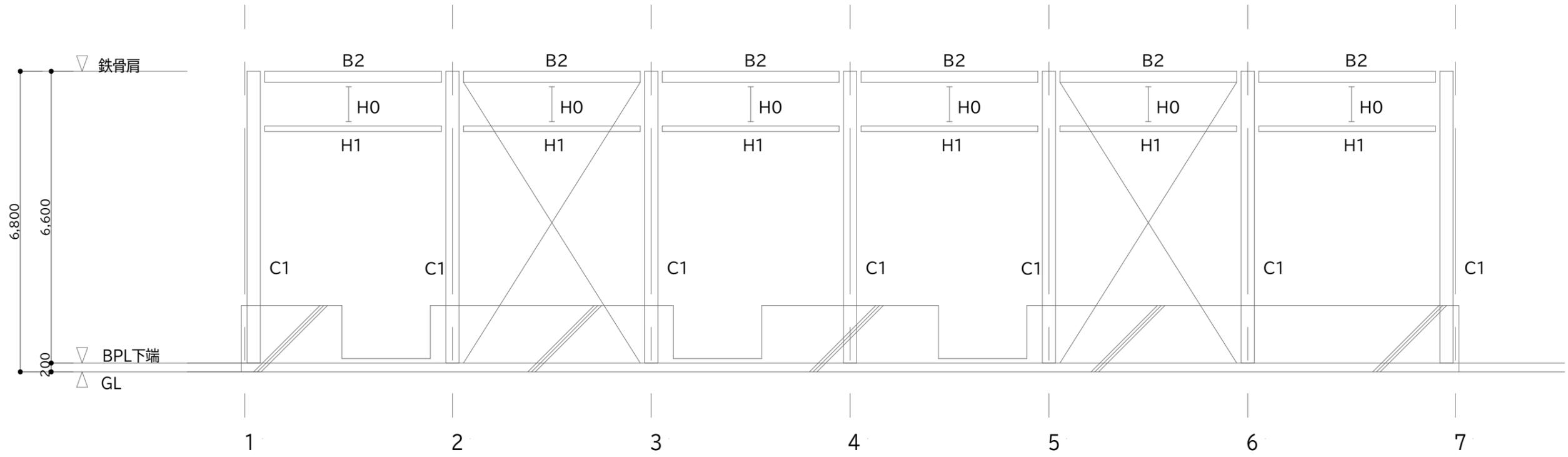
7通り軸組図 1/100



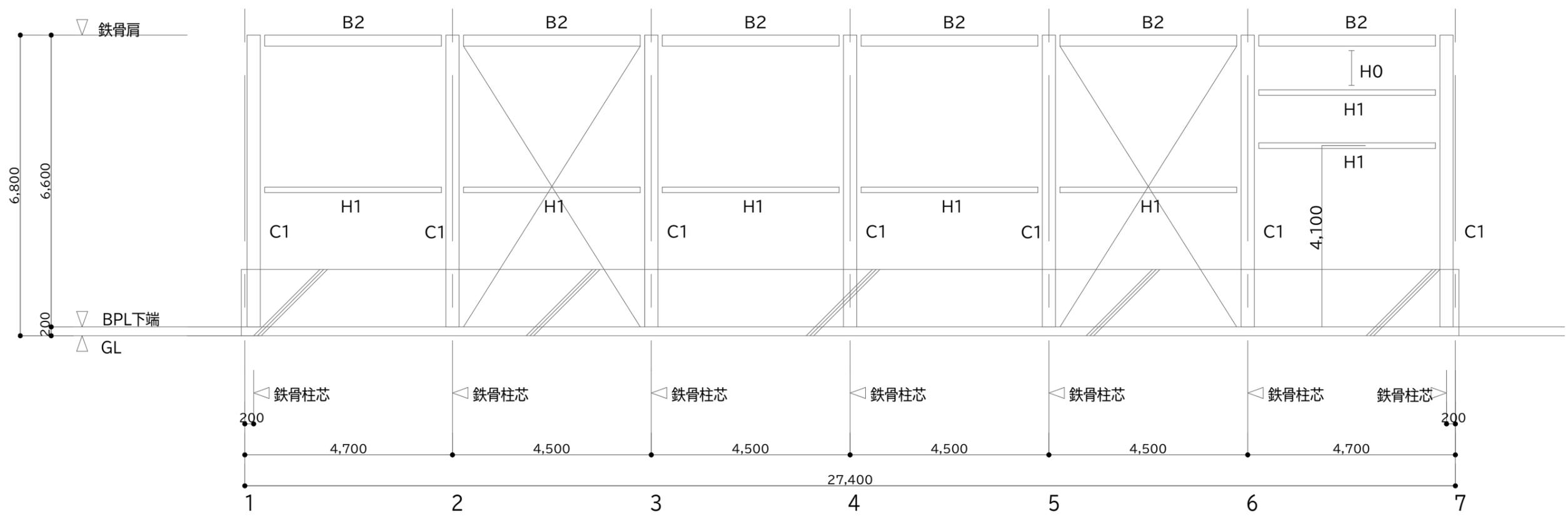
※全て撤去するものとする

軸組図共通事項

1. 梁JOINT位置:柱面より 750
2. 立上り壁 :W14
3. 大梁のジョイントが連続梁に重なる場合は移動すること
4. チャンバー室高さは意匠図による

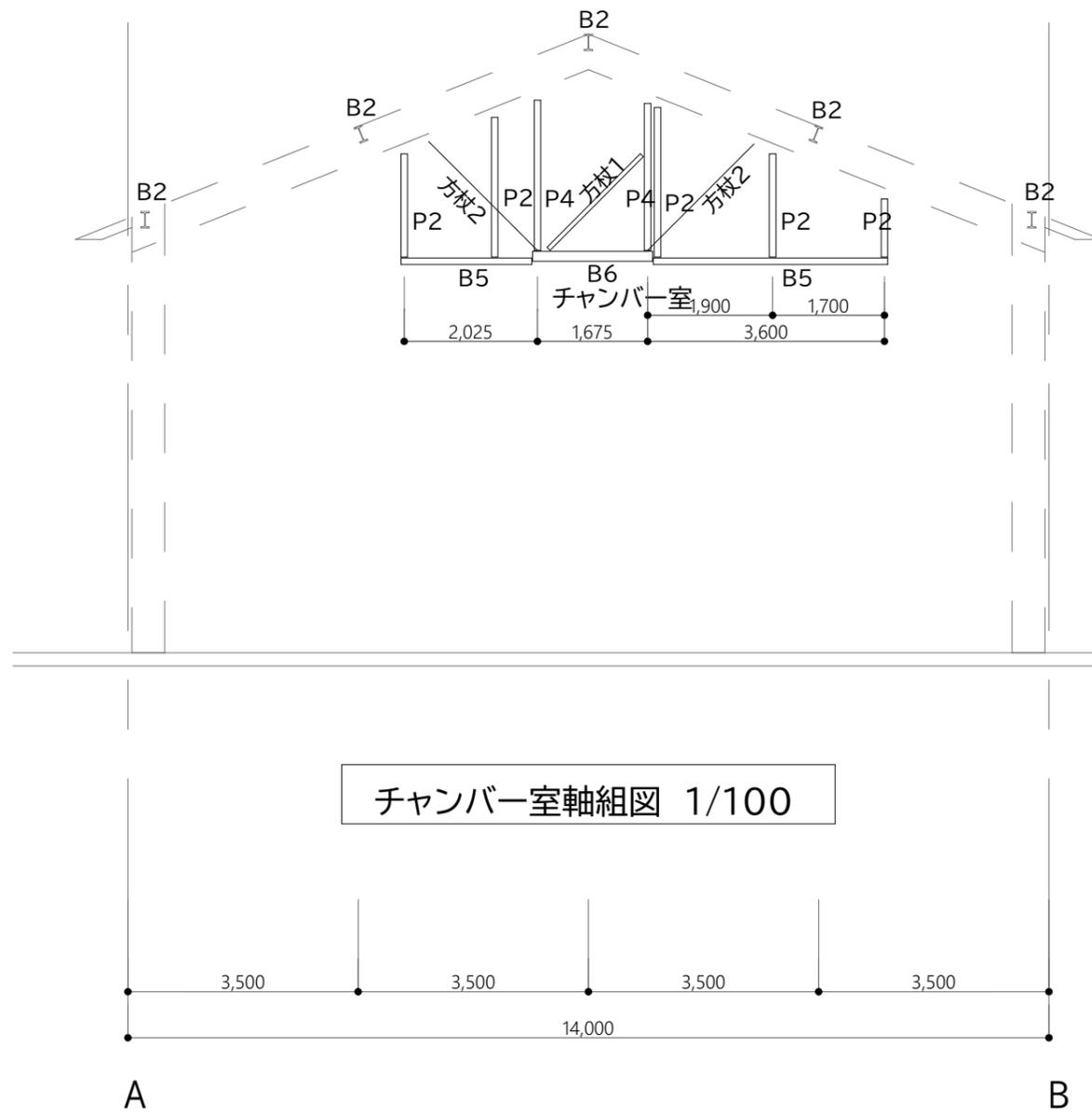


B通り軸組図 1/100 ※ 外観図



※全て撤去するものとする

A通り軸組図 1/100 ※ 内観図



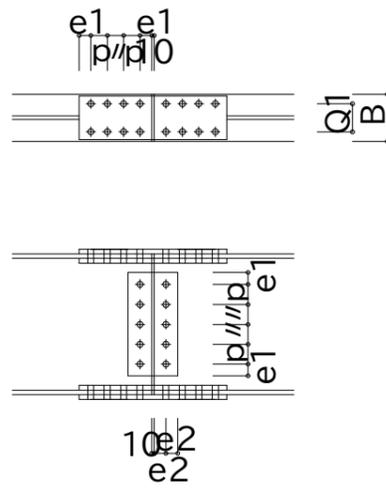
軸組図共通事項

1. 梁JOINT位置:柱面より 750
2. 立上り壁 W14
3. 大梁のジョイントが連続梁に重なる場合は移動すること
4. チャンバー室高さは意匠図による

※全て撤去するものとする

符号	接合部	主材	フランジ面			ウェブ面		備考
			外 PL	内 PL	H. T. B	2PLs, GP	H. T. B	
G1	剛	H-606×201×12×20	PL-16	2PLs-19	8-M20	2PLs-12×380	6-M20@60	
B1	ピン	H-200×100×5.5×8				GPL-6	2-M16	
B2	ピン	H-250×125×6×9				GPL-6	2-M20	
B3	ピン	H-150×75×5×7				GPL-6	2-M16	
B4	ピン	H-100×100×6×8				GPL-6	2-M16	
B5	ピン	C-100×50×5×7.5				GPL-6	2-M16	
B6	ピン	H-150×150×7×10				GPL-6	2-M16	
CB	ピン	H-150×75×5×7				GPL-6	2-M16	柱に溶接
H0	ピン	C-100×50×5×7.5				GPL-6	2-M16	
H1	ピン	□=125×125×3.2				GPL-6	2-M16	PL-6加工
H2	ピン	□-125×125×4.5				GPL-6	2-M16	PL-6加工
母屋	ピン	C-100×50×20×2.3@450					2-M12 (中ボルト)	ピースPL-6加工 2連続
軒先	ピン	2Cs-100×50×5×7.5					2-M16 (中ボルト)	ピースPL-6加工
根太	ピン	C-100×50×20×2.3@300					2-M12 (中ボルト)	ピースPL-6加工
屋根ブレース	ピン	1-M20(ターンバックル付)				GPL-9	1-M20	
壁ブレース	ピン	φ-101.6×4.2				GPL-9	3-M16	
ホイストビーム	ピン	I-250×125×7.5×12.5				2PLs-6	2-M20	
吊材	ピン	C-100×50×5×7.5				GPL-6	2-M16	
方杖①	ピン	L-65×65×6				GPL-6	2-M16	
方杖②	ピン	1-M16				GPL-6	2-M16	
配管架台	ピン	L-100×100×7				GPL-6	2-M16	

梁JOINT要領



1. 高力ボルトピッチ、ハシアキ、ゲージ

	e1, e2	p	B	Q1	Q2
M16	40	60	125	75	-
M20	40	60	150	90	-
M22	45	70	175	105	-
M24	45	70	200	120	-

2. フランジ添板

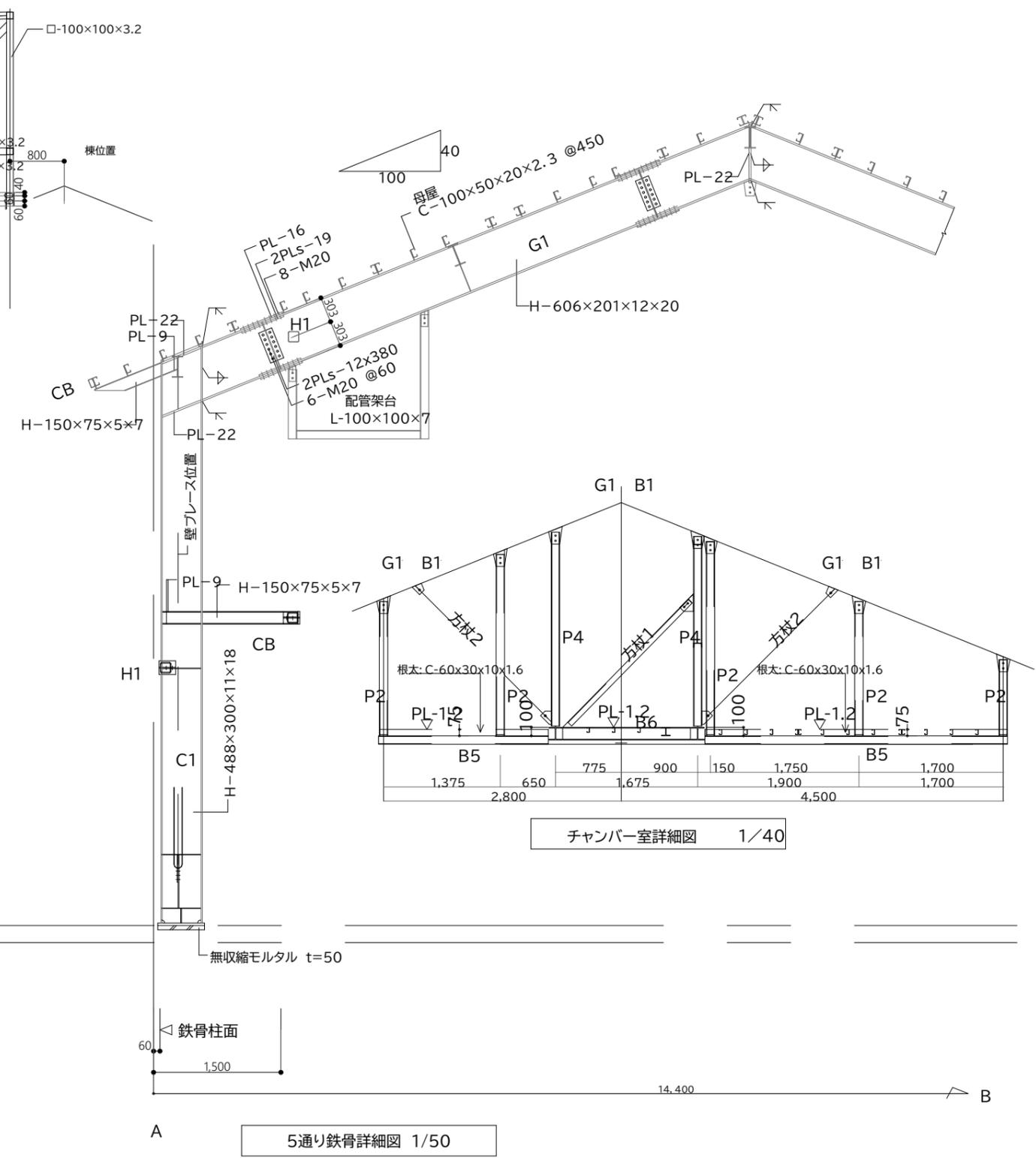
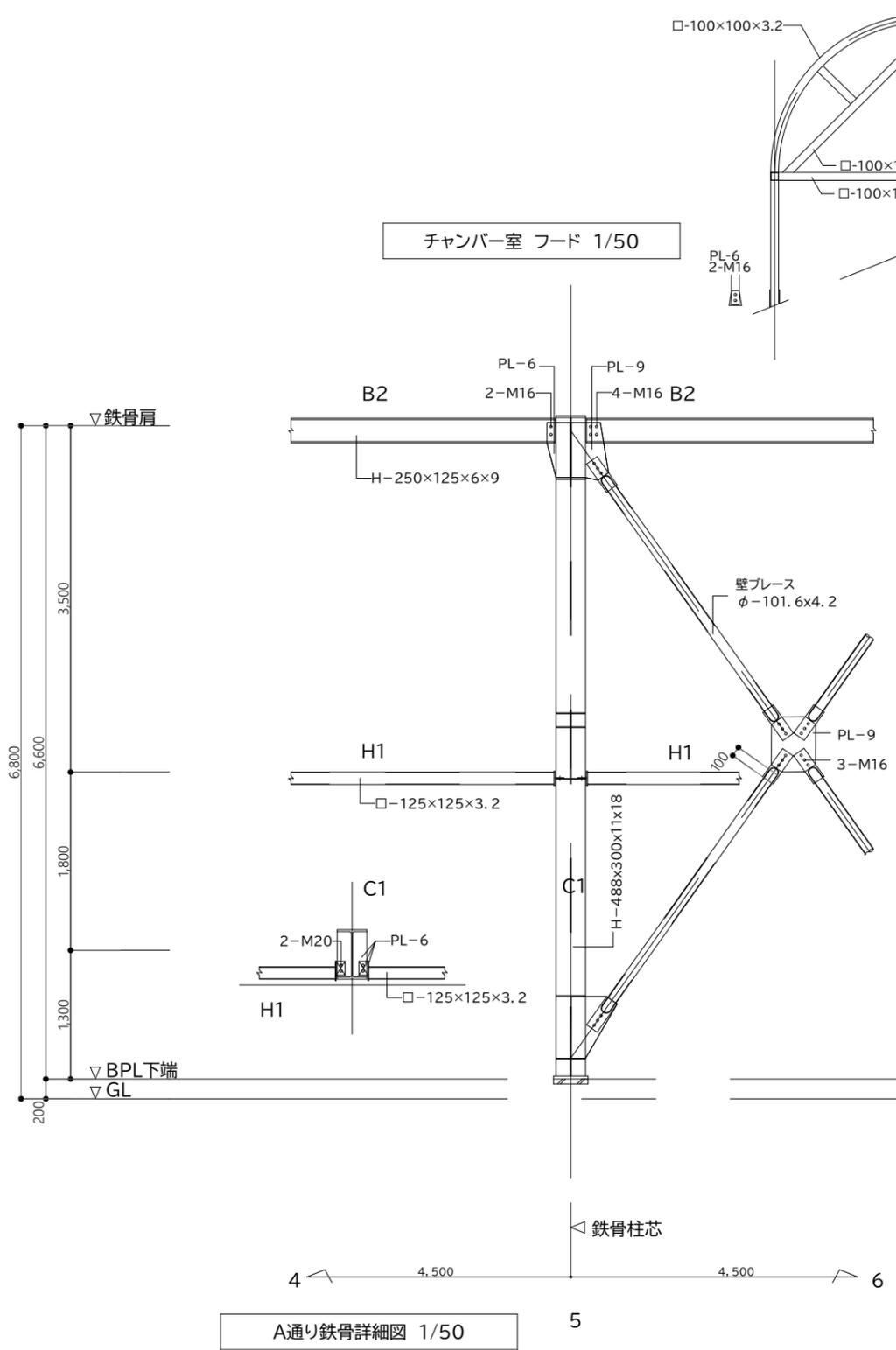
B	外側	内側
125	125	
150	150	55
175	175	70
200	200	70

- 3. H.T.B.: F10T, S10T
- 4. 垂鉛メッキ部材 : F8T(メッキボルト)
- 5. 高力ボルト継手部摩擦面 : ショットブラスト, サンドブラスト処理

柱断面リスト 1/30

使用材料 SS400

符号	C1	P1	P2	P3	P4
主材	H-488×300×11×15	H-250×125×6×9	H-100×100×6×8	H-125×125×6.5×9	H-100×100×6×8
接合部		GPL-6 HTB 2-M16	GPL-6 HTB 2-M16	GPL-6 HTB 2-M16	GPL-6 HTB 2-M16
断面			I	制御盤室 間仕切受	※ チャンバー吊材
BASELP	PL-22	PL-12			
A. BOLT	4-M20	2-M16			
ダブルナット L 先端フック付	800	560			
備考	RiVPL-9H=100				



※全て撤去するものとする